

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 2019年4月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200366
法人名	医療法人 生成会
事業所名	グループホーム とうりんじハウス
所在地	鹿児島県霧島市隼人町東郷102番地 (電話) 0995-73-6311
自己評価作成日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・これからの人生を家庭的な雰囲気の中でその人らしくゆったりと生活が送れるようお手伝いします。
- ・家族、地域の方々との絆を大切にします。
- ・笑顔で思いやりのある声かけを心がけます。
- ・ご利用いただく方の今のそのままを認め  
そのまを受け入れ  
そのままの生活を維持します。
- ・そのために、私達はあたり前の生活を  
あたり前のかかわりで  
ごくあたり前に提供します

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は静かな住宅地域に立地し、道路を挟んで母体医療機関があり、24時間対応の連携体制が整っており、定期的な受診と職員看護師の健康管理との連携も図られ、緊急時の対応などに適切な医療を受けられるよう支援している。
- ・日常の外出で地域の住民とふれあいながら挨拶や会話を交わす環境で、野菜などをもらったりもする。
- ・自治会に加入し、活動にも積極的に参加する一方、事業所では、障害者も視野に入れた日常の生活相談所として、ライフサポートワーカーの看板を掲げたり、地域の民生委員の勉強会に参加するなど、地域とは日常的に良好な関係が築かれている。
- ・管理者は職員育成に力を入れており、職員の働く意欲を引き出している。職員間のコミュニケーションも図られ、利用者や家族からの信頼が厚い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はホームの3ヶ所に掲示している。毎月第4金曜日にスタッフ会議を実施している。入所者一人ひとりに対し、問題改善点など考え、その人らしく生活が送れるようにカンファレンスを行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、玄関や事業所内に掲示している。申し送りやミーティング時に意識づけている。スタッフ会議等で確認し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民へ災害時の協力の呼びかけや自治会に加入し地域への協力体制を作っている。 近所に散歩に出かけたり、温泉の行き帰りなどでホーム前を行き交う地域の方々とは会話を積極的に行っている。 また、子供会や中学生・高校生、地域のボランティアグループとの交流も行っている。	自治会に加入し、回覧板等で地域と情報を交換し、地域への協力体制を作っている。初午祭グループの立ち寄りがあり、地域の人々の見物もある。買い物や散歩の際には挨拶や会話を交わしている。小学生や中学生との交流、ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ライフサポートワーカー(2名)の看板を掲げ、障害者も視野に入れた日常の生活相談所になっている。地域の民生委員の会へ、認知症の方の支援方法など実践を通じた勉強会を実施し発表している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入所者、スタッフの現況、行事報告を行っている。毎回テーマを決めて勉強会を行ない、年1回は入所者の食事を委員の方々が試食する食事会を開催し、意見を出し合っている。また、その結果はスタッフ会議で再検討し情報共有をしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価の結果報告などを行い、意見交換をしている。昼食試食会やテーマを決めての勉強会も行って、地域との交流を深め、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議時に市の担当者1名にも参加していただいている。ライフサポートワーカー会議や地域密着型サービス行事へ参加をしている事で、市職員と話す機会も多く、連携を深め、協力関係ができています。</p>	<p>市担当者とは、窓口に出向いたり、電話やメールで事業所の実情や取り組みを伝えたりして連携を深めている。運営推進会議やライフサポートワーカー会議を通して協力関係もできている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束ゼロの掲示をしている。担当者が地域密着型サービス開催の研修に参加し、2ヵ月おきに資料を用いた勉強会を行っている。昼間は玄関の施錠はしていない。特にことばによる拘束に注意しながら声かけをしている。転倒・転落の危険性のある入所者は、その都度、スタッフ会議にて問題解決できるよう検討し、対応を情報共有している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会で、2ヶ月に1回勉強会を行い、職員間の共通認識を図り、言葉による拘束も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は玄関の施錠はせず、見守りや同行など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。隣接する母体医療機関や地域住民の見守りがある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、担当者が中心に虐待防止を意識づけている。スタッフ間もストレスをかかえない様にお互い何でも言える関係性を心がけている。入浴時など全身観察を充分行う意識づけをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、1名の入所者が成年後見人制度を利用している。これからも必要なケースの可能性がある為、権利擁護に関する研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前にホームでの実際の他の入所者の生活状況や雰囲気、設備などご本人やご家族に感じたり見てもらっている。不安や疑問などに都度対応し、納得していただいてから入所契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族や第三者などに運営推進会議へ参加していただくことで、状況報告している。誕生会やその他の行事、個別の意見要望などは、対応できる事はその場で説明し、対応できない事はスタッフ会議で検討した結果を面会に来られたときなどにあらためて説明している。玄関に「ご意見箱」を設置している。	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞いて対応している。家族からは面会や近況報告を兼ねた電話連絡、運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。要望で薬手帳や処方箋の写しを渡し説明して、状況の理解に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や管理者宛のノートを活用し、意見・要望は開設法人の代表者、事務長へ報告している。	ミーティングや申し送りノートで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の提案を検討して、退院後の排泄の自立などのケアの統一を行っている。相談事は個別に聞き、適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務表は、スタッフの希望日に休日が取れるように作成に心がけている。2～3日間休みをとり、旅行や趣味の教室などへの参加ができるよう調整している。体調不良、急用時はスタッフ間で業務に支障が無いよう勤務交替している。スタッフ間でLINEグループを作成利用し、急な伝達事項や勤務変更などの掲示をし、すぐに情報共有できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修や希望の研修は積極的に参加してもらっている。一人ひとり責任を持つ担当を決め、スタッフ会議や勉強会のリーダーを担っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連合会とグループホーム協議会へ加入し、活動・研修・職員全体のレクリエーションなど積極的に参加している。また、その際に他事業所との交流も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初日は、ほとんど15時入所（お茶の時間）にし、他の入所者と一緒におやつを頂くことで不安や困っている事をききながら、安心して過ごせる環境を作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、ご家族双方の意思を傾聴し、これからの生活に対する希望や支援方法を話し合い、安心して過ごす事ができるように説明をしている。入所後も気軽に面会に来れるよう、スタッフとの関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意思を聴くだけでなく、入所前に利用していた事業所や医療機関等の情報を参考に、今後必要なサービスも視野に入れ対応している（リハビリや歯科なども含む）。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者ご本人の気持ち（困りごと）を察知し、相手の立場に立った声かけ援助をしている。 ご本人のできる事を探し、スタッフと一緒に行い、生活する入所者間との関係も築けるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族によって、毎週、曜日を決めて来られたり、月1回の外出、遠方からご家族が協力し合って外出、外泊、ホームでの時間の共有をするなどご本人の関係を大切にいただけている。また、外出・外泊は自由になっている。ご家族の要望があれば介護記録はいつでも読むことが出来るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅で大切にされていた物や写真などを持参していただき、ご本人の部屋であると分かりやすくしている。行きつけの散髪屋さんなどにカットをしていただいている。友人の面会やご家族との外食などを積極的にしていただき、楽しく過ごせるよう配慮している。	家族や友人・知人の面会を奨励し、居室で懇談できる環境である。馴染みの理・美容院通いや手紙・電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう支援している。家族との外出や外食・墓参などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の会話も積極的にできるよう配慮し、ソファやイスの位置など工夫している。入所者同士で声かけを行い、安全に楽しく過ごせるようお互いで支えあっている。なるべくスタッフも見守り、一緒に会話し、コミュニケーションが取りやすいように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の場合は医療機関と連携し、ご本人やご家族の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所者一人ひとりに毎日の生活の中で表情、行動の中から思いや意向に気づくように努め、スタッフ間で情報共有し対応している。ご家族へご本人の意向を伝え、ご家族の可能な協力をもたらえるようにしている。	日々の関わりの中で、個々人とのコミュニケーションを図り、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者の思いを家族と相談し、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前に利用していた事業所などから情報を収集している。また、ご本人との自然な会話の中から生活歴を知るように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムに合わせて意思をくみ取り支援につなげている。また、日内変動や気分など状態に合わせた対応を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人、ご家族の思いや希望、能力等をモニタリングし、少人数でもスタッフ会議を行い、対応方法などを記録し、情報共有するようにしている。	本人や家族の意向を聞き、主治医の指示も踏まえた担当者会議で、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は、現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、本人の言われた言葉どおりに記録し、いつもと違う状況は記録もれのないようにする。大切な事、共有する情報などは赤色の鉛筆や枠囲いをしすぐに分かるようにしておく。 申し送りは、必ず介護記録を見ながら実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前の生活も把握し、ホームの中で発生するニーズにはご本人やご家族の意向を十分に確認し、スタッフ会議にて調整し、柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽のボランティアグループや地域の子ども会や近隣幼稚園児の訪問、中学生の演奏、地域の祭り（初午祭踊り連等）などの訪問を積極的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則月2回の訪問診察があり、体調の変化時の早めの対応に心がけている。リハビリテーション、歯科往診や他の医療機関の受診など必要に応じて対応している。	受診は、本人及び家族の希望で、ほとんど母体医療機関が主治医となっている。月2回の往診、歯科も月1回の往診である。他科受診は家族の協力を得て支援している。協力医療機関との24時間対応の連携も図り、適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝健康チェックを行い、体調の変化時はホーム内の看護師が早急に対応し、主治医へ報告、指示をもらっている。看護師・准看護師5名配置。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は、管理者や看護師が医療機関を訪問し連携、情報交換している。ご家族からの相談にもその都度応じ不安の軽減に努め、関係機関と連携できるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族の意思があればホームでの看取り介護が可能であることについて、入所時に説明し、いつでも相談を受けることができるようにしている。重症化した場合は、主治医、ご家族、スタッフが今後について話し合い、よりよい終末期が送れる様に連携しながら支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に、重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い事業所で、できる事とできない事の説明をしている。主治医の意見のもと、家族と話し合いを重ね、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。家族の協力を得て、看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応、人工呼吸、心臓マッサージの方法、AEDの使用法を勉強している。表皮剥離や、誤嚥時などスタッフ全員が対応できるように研修をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で避難訓練を昼間、夜間の想定で年2回行っている。災害時は全スタッフが通報、消火、誘導できる様になっている。特に水害に対しては、2階への避難を誘導する。自治会は高齢者が多いので避難時の見守りをしてもらえるように依頼している。自室前にネームプレートを準備しており、避難の際、本人確認がすぐにできるようにしている。 備蓄あり。	年1回、消防署立会いのもと地震や水害を想定して、昼夜想定での避難訓練を実施している。自主で年1回行っている。訓練時には地域住民の参加があり、利用者の見守りの協力関係もできている。スプリンクラーや緊急通報装置も整備し、定期的に設備等の点検も実施している。災害時の水や米・缶詰などの備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による拘束を常に注意し、一人ひとりに合った言葉かけをし、思いに寄り添える支援を行っている。	接遇等の勉強会を行い、職員の資質向上に取り組んでいる。入室時や入浴介助・トイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行い、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の理解力や聴力、タイミングに合わせて会話し、ご本人の思いが言いやすく、意思の決定がしやすい雰囲気を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望で入浴、昼寝などはある程度自由にしてもらっている。食事はできるだけ一緒に食べてもらっているが、その日の体調などを見ながら対応している。テレビを観たり、レクリエーションなどご本人の希望で参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時や普段着の準備は、ご本人と一緒にいき、その人らしいおしゃれや身だしなみができるように声かけをしている。訪問美容師以外にも、希望で自分の行きつけの美容室へ行くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日はご本人の好きなメニューをリクエストして決めている。嫌いな食べ物やいつも残す物は他の副菜に変えている。茶碗、お盆拭きや野菜の下ごしらえなど馴染みの生活活動はお手伝いしてもらえよう声かけをしている。	栄養士の助言を得て、専任の職員と食事当番で対応している。嗜好に配慮し、旬の食材で、個々に応じた食事形態を工夫している。口腔ケアも大切にしている。茶碗やお盆拭き・野菜の下ごしらえなどを職員と一緒に رفتりしている。誕生祝い・季節の行事食・外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録している。それぞれの状況に合わせ食形態を変えたり、食器を工夫してご本人のペースで食べられるように支援している。可能な時は、リハビリ職に指導を受けながら介助方法を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、出来ない部分の介助をしている。できない入所者は介助し、お茶うがいをしてもらっている。口腔内の炎症にも注意して観察している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で確認しながら声かけしたり、行動にて尿意便意が分かったらトイレに誘導している。昼間は基本的にトイレを使用、移乗移動もリハビリとして支援している。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間のポータブルトイレ使用者もいる。退院後にオムツから排泄の自立に改善された事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食材やお茶、お菓子を 選択し水分摂取方法を工夫を している。腹部マッサージ、体 操、りきみの訓練等も行なっ ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員の都合 で曜日や時間帯を決めてしまわずに、 個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を基本としてい る。それぞれ体調などで変更す ることもある。入浴時は湯加減 を調整し、入浴剤を利用、洗身 用は各自のフェイスタオルと石 鹸を利用している。皮膚の状態 によりベビーオイル、クリーム などの塗布や保湿を行なってい る。	入浴は基本的に週3回、午前中にな っているが、個々人の体調や 希望に沿って柔軟に対応してい る。シャンプーやリンス・石 鹸・ベビーオイルなど、好みの 物を利用して、入浴を楽しめる よう支援している。入浴を拒む 利用者にも声かけや時間調整な どで職員間で連携して、状況改 善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりに応じた睡眠パター ンに合わせ、言動に注意し声か けをしながら安眠できるよう見 守る。照明や音など環境にも配 慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	薬の内容はお薬手帳や薬局からの文 書で確認し、看護師が整理してい る。食札に薬の個数を記載し、ス タッフ間でも声かけ確認し、食 事終了時まで空袋を盆上におく ことで、飲み忘れ防止に努めて いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>四季の行事や、散歩、テラスの花野菜などで季節を感じやすい環境に配慮している。毎日の生活の中でできる役割を見つけて手伝いをもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご本人、ご家族の希望があれば原則として外出、外泊に制限はない。ご本人の希望に合わせ、天気が良い日など近くの公園に散歩に行き気分転換ができるような援助を行っている。</p>	<p>日常的には周辺を散歩したり、外気浴を楽しんでいる。希望により郵便局や買い物に出かけたりしている。計画を立てて、初詣や花見・ソーメン流し・地域の行事などに出かけている。家族の協力で外出・外食・墓参などの際にも支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持することで安心される方には、ご家族の了解の上で所持してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があればご家族へ直接電話し会話してもらっている。手紙が来たらスタッフがご本人に分かるように音読する。遠くのご家族へは、メールや手紙で近況を報告している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの自然な明かりを取り入れており、心地よく過ごせるようにしている。居室はフロアーから見渡せ、開放感のある雰囲気である。	共用の空間は、天井が高く天窓からの明かりが穏やかである。採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には季節感のある作品が飾られている。猫も利用者に可愛がられながら生活している。ゆったりしたソファで居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席でゆっくり外を眺めたり、ソファでテレビを観たりできるようにし、パーソナルスペースを確保しやすい配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室。居室にご本人の若い頃や家族の写真を置いたり、使い慣れた小物を持ち込んだりできる。読書や、ラジオを聞いたり、入床時リラックスできるような音楽を流すこともできる。面会時はゆっくりお茶を飲んだりして過ごせる様に配慮している。	ベッド・洗面・エアコン・床頭台・ロッカーは、ホームが設置している。ラジオをかけたり、音楽を流したり、布団は好みのものを持ち込み、ぬいぐるみや小物を置いて自分らしい暮らしをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電動ベッドは、それぞれご本人や介助者が安全に使いやすいように設定している。夜間は安全に配慮し自室内にポータブルトイレを利用してもらっている。整容は自室で行えるように誘導している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない